

唐招提寺藏『六大無尊義抄』二帖(一)

——上帖影印並びに書誌的解説——

花野憲道

目次

一、はじめに

二、書誌

一、はじめに

天平宝字三(七五九)年唐僧・鑑真和上開基になる天下の名刹唐招提寺には、『瑜伽師地論』卷第三十八(奈良時代写)・『四分律行事鈔』卷下(平安時代初期写)・『戒律傳來記』卷上(平安時代後期写)・(以上重要文化財)・細字『大毗盧遮那經』(平安時代中期写)など、国語学的にも貴重な訓点を施した経巻が多数伝来経として伝わっている。⁽¹⁾ それらの一部の経巻に就ては、夙に田山信郎氏(古典保存会刊影印本解説)・中田祝夫氏(古点本の国語学的研究)などに御高論が述べられている。

今般、影印を公開する聖教『六大無尊義抄』は、森本孝順唐招提寺長老が七十余年の長期に亙り蒐集された数多くの古経巻中の一つである。森本孝順長老は自ら蒐集された聖教類の主なもの、二冊の図録『唐招提寺古経選』⁽²⁾ 『唐招提寺古経選續篇』⁽³⁾ (但し續篇は非売品)に掲載収録されている。『六大無尊義抄』はそのうちの「續篇」に収められている

資料である。本書の影印等の公開に就ては、森本孝順長老並びに唐招提寺当局の格別なる御温情と温かい御許可の言葉によるものである。

本書は上下二帖に分かれている。本資料全体を掲載するにあたり紙数を考慮して影印・解説・訓読文等を分載することとし、本輯に於ては「上帖影印と書誌的解説」を収め、「下帖影印と内容的解説」・「訓読文」等は次輯以降に譲ることとする。このことに就て大方の御諒解を願いたい。

二、書 誌

唐招提寺蔵『六大無尋義抄』上・下二帖は鎌倉時代中期建長四（一二五二）年の奥書を有する粘葉装縦長本で、楮交り斐紙、押界八行、縦二十六・八糎、横十六・九糎、界幅一・八糎、界高二十二・二糎、各帖共内題下方に単廓「方便智院」朱印一顆ずつ押捺している。上帖の表紙は縦長張題箋を残した原表紙で、表紙には別筆ではあるが「梅尾方便智院本」と墨書されている。それらによって本書が洛西梅尾高山寺旧蔵であったことが知られる。下帖は原表紙が薄く剝れ題箋・墨書は認められない。

〔外題〕「上帖」「六大無尋義卷上」

〔下帖〕ナシ

〔内題〕「上帖」「六大無尋義抄卷上」

〔下帖〕「六大無尋義抄卷下」

〔尾題〕「上帖」「六大無尋義抄卷上」

〔下帖〕「六大無尋義抄卷下」

〔奥書〕「下帖」「一校了」

唐招提寺蔵『六大無尋義抄』二帖（一）

隱侶高信

元是假名也彼草於高山寺林師令一見給了／其後依同侶勸進成眞名畢矣

建長四（一一五二）年^{壬子}二月二十八日於丹州神尾山／北谷草室聊加點畢遂可再治之也矣／山中非人高信

*一字分削除、「唐招提寺古經選」に収められている田中稔氏の翻刻には「或」字とするも「諸」とも見える。

本文墨書は、上帖・下帖のそれぞれ個別についてみれば、各帖共全丁に互り同一人の手になると認められる。しかも上帖と下帖との筆は別人の手によるものと考えられる。

訓点は朱点（句切点・返点・声点）、墨点（仮名・声点）が二帖共本文と同筆で付されており、共に建長四年頃の加點と考えられる。奥書は当然ながら高信の作によるものであるが、本人自筆という確証は現在のところ持っていない。奥書に記された内容に就て考察すれば次の様になるうか。

此の奥書には、寛元五年に一人の懇請により高信が「六大無尊義抄」を短時間で草した事が先ず記されている。その時に書かれた文体は仮名書きであった。これを「仮名書き祖本」ということにする。此の仮名書き祖本を義林房喜海の閲覧に共し、後に同侶の勸進により漢文体に改めたことが知られる。これを「漢文体祖本」と呼ぶことにする。そして寛元五年に高信が仮名書き祖本を草してより五年後の建長四年二月に、同じく高信が漢文体祖本に加點をしたもの、或いは同時期に書写されたものが本資料ということになるう。更に、仮名書き祖本を漢文体に改めた作業は高信をはじめ、高信の身近な人（弟弟子か）が分担して担当したのであるうということが考えられる。

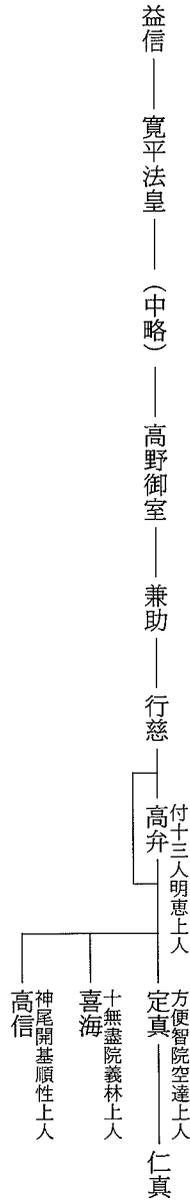
ここで奥書にみられる高信に就て、彼の来歴を簡単にみておくことにする。

高信は順性房と号し、明恵上人の高弟の一人である。建久四（一一九三）年に生まれ、文永元（一一二六）年六月五日入寂している。代表的著作としては本資料『六大無尊義抄』をはじめ、宝治元（一一二四）年に丹州神尾山寺にて同

侶等と共に『解脱門義聽集記』を編纂し、又建長五（一一五三）年には後嵯峨院の命に依り『高山寺縁起』を著した学僧である。

高信の血脈は次に示す通りである。

〔廣澤血脈梅尾流〕（高山寺本抄出）⁽⁴⁾



〔華嚴血脈〕（高山寺本抄出）



同じく神尾山は神尾山寺・金輪寺とも称され、丹波国宮川（現在の京都府南桑田郡宮川）に在る天台宗寺門派の寺で、順性房高信により遺教台が開創されて以降明恵上人の法燈を伝えた寺院である。正嘉二（一一五八）年以前に高山寺の寺領となり、隆昌期には南谷・北谷に多くの堂塔を擁し、室町時代後期には足利幕府の崇敬を受けたと伝えられる。⁽⁵⁾

『六大無尋義抄』は『即身義六大無尋抄』とも称され、空海撰述『即身成佛義』の注釈書の一つであり、それら注釈書類の中では随分早い時代に成立した疏釈といえよう。例えば『正・統真言宗全書』・梅尾祥雲著『現代語の十卷章と解説』などに『即身成佛義』の疏釈の主なもの収められている。しかし『六大無尋義抄』という名称は、それらの中には認められない。一方、古写本に就ては僅に高山寺・真福寺(8)に所蔵されているようである。

高山寺旧蔵と目される本資料は、高山寺蔵「方便智院聖教目録」第三(文明頃写)・「方便智院聖教目録」(江戸初期写)共に所蔵の記録が認められる。よって、江戸初期頃までは本資料が高山寺方便智院に蔵されていた事が判明する。このような各種の事情から、本書の存在は余り広く知られていないように推察され、その点からも極めて貴重な資料であると考えられる。

現在迄に調査し得た諸本は唐招提寺本以外では次の通りである。

①高山寺蔵『六大無尋義抄』卷上・下 二帖(高山寺聖教類第二部24号)

鎌倉時代後期写、「密蔵院」墨印、「心蓮院」「仁和寺/心蓮院」「高山寺」各朱印押捺、体裁等は唐招提寺本に極めて良く類似している。

(奥書) 唐招提寺本と全同の奥書本文に次の一文を加える。

「此抄上下明恵上人弟子作也神尾中興開山号順性也」

(付箋) 唐招提寺本と全同の奥書本文に次の一文を加える。

「私云如此當寺ニ一部去本候奥書ニ候間写欵遂之 弁(花押)」

②高山寺蔵『六大無尋義抄』巻下 一冊(高山寺聖教類第四部第一二六函48号)

江戸時代元禄五年写、永辨筆。

(奥書) 唐招提寺本と全同の奥書本文に次の文を加える。

「右之抄上巻古本少、書加之ノ猶下巻全不足故此度補之ノ也 / 沙門永弁六十七才 / 于時元禄五_{申壬}年正月九日」

尚、本資料と諸本については後稿で考察してみたい。

[未完]

注

- (1) 森本孝順『唐招提寺古經選』(堀池春峰・田中稔・山本信吉篇、中央公論美術出版、昭50・9)による。
- (2) 注(1)文献。
- (3) 唐招提寺発行(平2・11)。
- (4) 「廣澤血脈樹尾流」「華嚴血脈」共に『高山寺資料叢書、明恵上人資料第二』(東京大学出版会、昭53・3)による。
- (5) 納富常天解題「解脱門義聴集記」(『金沢文庫紀要』4、昭42・3)、奥田勲『明恵遍歴と夢』(東京大学出版会、昭53・11)、同「神山山年表及び関係資料集」(高山寺典籍文書綜合調査団『研究報告論集』昭58・2)、『高山寺資料叢書、高山寺古文書』(東京大学出版会、昭50・3)などを参照。
- (6) 『佛書解説大辞典』。
- (7) 「即身成佛義」(一卷)は、「般若心經祕鍵」(一卷)「聲字實相義」(二卷)「吽字義」(二卷)「辯顯密二教論」(二卷)「祕藏寶鑰」(三卷)「菩提心論」(一卷)と共に「十卷章」と呼ばれ、真言宗教相面での基本書である。
- (8) 注(6)文献。